

第4学年 図画工作科「光と影で自分のイメージを表そう ～光とかげから生まれる形～」

授業者 造田 朋子

<p>前時までの学び</p>	<p>思い付いたイメージを表す影をつくるためには、形の感じ、光の当て方、色の感じの三つの視点が大切です。それらを前時までの3時間で段階的に獲得しながら、影を面白くする工夫を考えてきました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>題材の終末でどんなイメージでも自在に表せる影の魔術師になるために、三つの視点からの工夫をたくさん見付け、<u>影の魔術発見ボード</u>をいっぱいにしたいという思いをもちました。色の工夫を見付ければボードが完成できるので、友達と鑑賞し合って工夫をたくさん見付けたいと、交流への意欲を高めていました。</p>  <p>友達と見せ合うと、自分はしてなかった工夫がたくさん見付かって、自分の影がよくなるからです。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>学習課題：工夫を見付けて、思い付いたイメージを表そう</p> </div>
<p>〈課題解決中〉 2 つくった影を鑑賞し、工夫を見付け合う。 3 見付けた工夫を生かして活動する。</p>	<p><u>影の魔術見付けタイム</u>では、前時につくった影の写真と、そのイメージ、三つの中で特に意識した視点とその工夫について書いた<u>影の魔術見付けシート</u>を見せ合って友達と対話しながら、自分に生かしたい工夫を見付けてシートに書き込みました。つくった影の写真があることで、どのように工夫したのかや、そうした理由について自然に問い合う姿が見られました。</p>  <p>赤く透けるコップを並べて宝石をつくったよ。</p> <p>どうして赤色ばかりにしたの。</p> <p>同じ色をたくさん並べると強い感じになるからだよ。</p> <p>私はいろいろな色を使ったけどこんな工夫もできるな。</p> <p>その後、見付けた工夫を生かして、思い付いたイメージの影をつくり、つくりかえ、つくっていきました。</p>  <p>黄色のセロファン紙に、洗濯ばさみをつけたら竜に見えた。空に浮かぶ感じにしたいから上から糸で垂らそう。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 本時の学びを振り返る。</p>	<p><u>影の魔術見付けシート</u>に、本時に撮影した写真を見ながら「できたこと」「工夫した理由」「次にしたいこと」の観点で振り返りを書きました。題材を通して影の<u>魔術師への道</u>として振り返りを蓄積してきたことで、本時までの学習の成果を基に次の時間の見通しがもてていました。</p>  <p>友達と見せ合ったから新しい工夫ができて、いろいろな影がくれたよ。影の魔術師になれたから、次は影の発表会だね。</p>
<p>考察</p>	<p>ワークシートに、毎回の影の写真を貼り自分や友達の工夫等を書き込んでいくことで、前につくった影を振り返り、自分の伸びや協働のよさを実感できた。</p> <p>題材の流れや既習をまとめた補助黒板をより視覚的に分かりやすい構成にしたり、図画工作科に合った鑑賞のさせ方を考えたりする必要がある。</p>